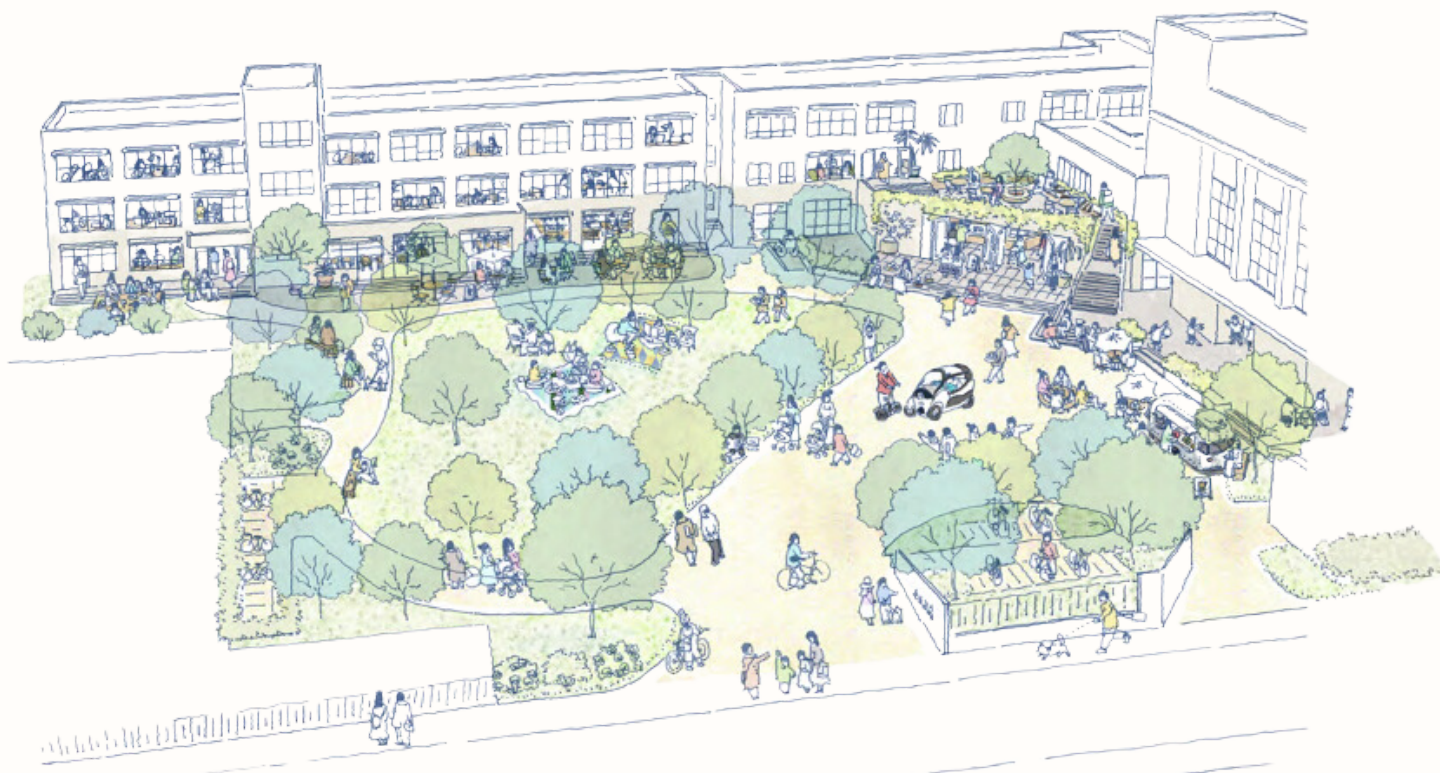


旧池尻中学校跡地で進行中！ 事業者と地域住民、ビジネスと学びと暮らしが シームレスにつながる新プロジェクト



廃校から新たな価値創造を

平成16年に廃校となった旧池尻中学校。その後、地域の思い出として残る校舎の姿をそのままにして、世代を超えて誰もが今一度集うコミュニティの場、さまざまなものづくり体験を通して区民が交流できる場、また、地域の産業や創業を促進する拠点「世田谷ものづくり学校」として生まれ変わり、活用されてきました。学校跡地活用の好事例として全国から視察に訪れる人も多い注目施設でしたが、これからの時代に求められる多様性に対応するため、耐震補強工事をきっかけに令和4年5月に閉館しました。

その旧池尻中跡地では、スモールオフィスやコワーキングスペース【註1】、飲食・物販ショップなどが並ぶ産業・働くエリアと、スクールやブックラウンジなどの学び・交流エリアがシームレス【註2】につながる新たなプロジェクトが進行中で、令和7年の開館を目指しています。

「(仮称)世田谷village」と名付けられたこのプロジェクトは何を目指し、区民や事業者はこの場所をどう活用できるのか、その概要をご紹介します。

事業者・起業家と地域住民の交流で 持続的な地域経済の発展を目指す

ビジネスモデルはもちろん、人々の価値観にも大きな変化を与えた新型コロナウイルス感染症。行動制限により、もともと世田谷の強みやユニークポイントであった、店舗・対面ビジネスは大打撃を受けました。コロナ禍を経て、あらゆるサービスで一層のDX（デジタルトランスフォーメーション）化が迫られており、この流れは不可逆なものになっています。反面、人と人の交流や対面コミュニケーションの価値が再確認され、いかに“世田谷らしさ”を引き継いまま、価値や事業をアップデートさせていけるのか——それが新たな課題となっています。

一方、「生活」に目を向けると、私たちの生活を取り巻く社会や地域の課題は複雑化・多様化しており、環境保全やSDGs【註3】への対応、循環経済への移行などが喫緊の課題です。これらの課題は事業者によるソーシャルビジネス【註4】としての活動による解決が不可欠で、それは住民を巻き込んだ動きにより、より効果的に実現するもの。今まで以上にさまざま

な事業者・起業家と地域の連携が求められています。

そうした時代の変化に対応するため、「（仮称）世田谷village」は、産業活性化の拠点として、新たなビジネスや区内産業の発展、地域課題や社会課題を解決するための実験や検証をする場を提供します。それにより、区内産業の活性化や新たな価値を生み出す人材の育成と、世田谷の特色を兼ね備えた高度な水準の持続可能な地域経済の構築を目指します。

具体的には「多様な企業人材が新たな価値を創造する場」「職住近接のため多様な働き方の支援拠点」「未来を担う子どもへの新たな学びを实践する場」「地域特性を活かした賑わいをつなぐ場」という4つのコンセプトのもと、モールオフィスやコワーキングスペース、チャレンジショップ【註5】、スクール、多目的カフェなどの機能を持ち、それぞれが関わり合いながら事業を発展させていく形を追求していきます。



懐かしき学校の風景。
ここでまた新たな出会い
に触れ、互いに学び、
ともに成長していく。



「(仮称) 世田谷Village」の4つのコンセプトをかたちにしたイメージ

子どもも大人もチャレンジできる！ 「働き・食べ・学べる」に世田谷らしさを内包

では、具体的にどのような機能や空間が想定されているのでしょうか。

【商業区間】飲食店舗／物販店舗

まるでミニ商店街のように、飲食店やユニークな商品を扱う物販店舗が並びます。世田谷区民のライフスタイルと親和性が高く、かつこれからの時代を見据えた特色ある店舗が並ぶ予定です。「(仮称)世田谷village」への出店から、世田谷区内・全国への展開を見据える事業者の出店も期待しています。

【チャレンジショップ】

「(仮称)世田谷village」で予定されている創業支援プログラムの参加者を中心に、初めてショップを運営する人たちが活用します。新規出店をサポートしつつ、定着や店舗の安定運営のためのノウハウ、ネットワークも「(仮称)世田谷village」が提供します。

【多目的カフェ】

性別や年代、障害の有無等にかかわらず、すべての方が楽しめるようにユニバーサルなメニューや内装に配慮したカフェ。可変性のある家具とバリアフリーな設計でイベントや展示会などさまざまなニーズにも対応が可能です。誰もが気軽に訪れ、気軽に利用できます。



【スクール】

子どもたちの無限の可能性をサポートするスクール機能も兼ね備える予定。「レジャヨエミリアアプローチ」と呼ばれる、子どもの主体性・創造性を重視する教育法をベースに、アートや科学から食、農などさまざまなジャンルのプログラムの提供を予定しています。また、施設内の「働く大人」を見ることでアントレプレナーシップ【註6】を醸成し、世田谷で新たなチャレンジを起こすことを促す一方、その子どもたちの姿から大人も新たな気づきを得られるような交流の機会を作る予定です。

【コワーキングスペース】

「働く場の提供」だけでなく、事業者間の連携や共創を生む交流の仕掛けやマネージャーによる助言、第二創業やスタートアップ支援、リスクリング教育の場となるようなプログラムを準備。リモートワークなど人とのつながりが希薄になりがちな働き方に対し、共有ラウンジやシェアキッチンでの交流も通じて、新たな出会いが生まれる多様な働き方を支援できる場を創出します。

【スモールオフィス】

区内既存産業の事業者が事業をアップデートする際のパートナーとなる事業者や世田谷区内はもちろん、海外も含めたローカル企業の東京拠点としての活用なども想定しています。単にオフィスを構えるのではなく、商業地区の店舗や企業が他の入居者とのコラボレーションを促進する仕掛けも構想しています。

【ブックラウンジ】

地域に開かれた空間の入口として、入居企業やコワーキングスペース利用者だけでなく、訪れた人が幅広いテーマの書棚で良質なインプットを期待できる空間とします。

【体育館】

従来からの団体利用の貸し出しはもちろん、クラブハウスを設置して独自のコンテンツを提供し、趣味やマインドフルネス、コミュニティづくりに応じた場の提供を行います。また地域で活動するプロチームが監修する教室やスポーツフェスティバルの企画運営も想定しています。

【広場（校庭）】

キッチンカーや移動販売などの出店を通じて、生活者と事業者の交流とにぎわいを創出します。事業者にとっては住民や他の事業者との交流の場にもなります。また、事業者の成長に欠かせないマーケティングや社会実験、最新テクノロジーの実証フィールドとしての一面も持ち合わせます。

事業者と地域住民が交流し、新たな価値を生み出していく。その過程を見つつ、さまざまな社会実験プロジェクトを通して“挑む力”を育んだ子どもたちが、新たな起業家となっていく。そういったポジティブな循環を創ろうとしている「(仮称)世田谷Village」。世田谷で新たなチャレンジをしてみたい方の参加を心よりお待ちしております。

【註1】コワーキングスペース：さまざまな属性の利用者たちが同じ場所で机と椅子などをシェアしながら仕事をする場所のこと。

【註2】シームレス：垣根や縫い目がなく、一貫している様子を指す。

【註3】SDGs：「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」の略称で、この地球で暮らし続けていくために、2030年までに達成すべき目標として定められたもの。

【註4】ソーシャルビジネス：地域社会の課題解決に向けて、住民、NPO、企業など、さまざまな主体が協力しながらビジネスの手法を活用して取り組むこと。

【註5】チャレンジショップ：本格的な開業の前に一定期間試験的な開業ができる施設。

【註6】アントレプレナーシップ：起業家精神。起業に限らず、新事業創出や社会課題解決に向け、新たな価値創造に取り組む姿勢や発想・能力等を指す。



学校内外で育まれる
さまざまな交流と
にぎわいが、
世田谷区を彩っていく。

